

科目名 社会教育実習
Title Internship for Community Education
科目区分 実習科目(資格関係)

教授 櫻井 常矢(サクライ ツネヤ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3 単位区分 単位数 開講時期
3 要件外 2 前期

目的

社会教育の現場では、それぞれの地域社会の特性をふまえつつ、また個人、各種サークル、学習グループ、NP Oなどの多様な学習主体との直接的なかがわりの中で事業が創り出されていく。その際、社会教育主事はどのようにその役割を果たし、またいかなる今日の課題を抱えているのだろうか。この実習では、社会教育施設(高崎市中央公民館・地区公民館)における職務内容への実践的理解を深め、社会教育主事としての基礎的な知識・技術を身につけることをねらいとする。

達成目標

本実習では、地域コミュニティの最前線に位置する社会教育施設(公民館)の職務内容への理論的かつ実践的理解を通して、施設職員あるいは自治体社会教育職員の役割(知識・技術)が理解できるようになることを目標とする。

スケジュール

概ね下記の内容を進めるが、学外の社会教育施設における実地実習が中心となるため、実習生の受入先の事情等から変更もありうる。また事前・事後指導では、小グループを編成し演習形式で行う予定である。

【事前指導】

- 第 1 回：オリエンテーション
(実習の進め方、スケジュールの確認)
第 2~3 回：社会教育法制度における公民館
(社会教育法、公民館の設置運営に関する基準、他)
第 4~5 回：公民館の運営について
(職員体制、事業内容、公民館運営審議会、県公連、他)
第 6~7 回：社会教育施設職員の職務内容と専門性(1)
(高崎市の社会教育)
第 8~9 回：社会教育施設職員の職務内容と専門性(2)
(公民館と地域づくり)
第 10~11 回：社会教育施設運営をめぐる課題
(課題整理に基づく実習に向けた各人の目標設定)
第 12 回：実習にあたっての心構え
(実地実習に向けた準備、配慮点の確認)

【実地実習】

社会教育施設における5日間の実習

【事後指導】

- 第 13~15 回：実習の総括
(実習報告、全体討論)

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。

参考書 下記のほか適宜紹介する。『公民館のデザイン』エイデル研究所,2010年、『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所,2017年

授業外での学習

次回の講義範囲に関連する内容について、講義内で指定(配布)した資料などをよく読んで予習をしておくほか新聞やニュースなどからも積極的に情報収集すること。また、講義後は必ずノートや配布資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

事前・事後指導の受講状況、並びに実地実習での取り組み姿勢から総合的に判断する。

履修上の注意

- ◇学内掲示等での諸連絡に注意を払うこと。
- ◇本実習は地域コミュニティの最前線での実地体験となるため意欲的・積極的な学生の受講を期待する。

科目名 博物館実習I
Title Internship at MuseumI
科目区分 実習科目(資格関係)

教授 友岡 邦之(トモオカ クニユキ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3 単位区分 要件外 単位数 1 開講時期 後期

目的

博物館の登録制度、学芸員の養成プロセスと待遇、指定管理者制度等、現在、日本の博物館施設は様々な検討課題を抱えている。こうした状況下でも施設運営の現場に立つ人々は、各施設のミッションの遂行のために日々努力をしている。本実習では、学芸員の職務内容を理解するとともに、施設運営に関する基礎的な技術を身につける。また本実習は「博物館実習II」とともに、学芸員資格課程の最終的な仕上げとして位置づけられている。

達成目標

- ・ 地域社会にとっての博物館施設の存在意義を理解する。
- ・ 学芸員の職務内容と待遇の実態を理解する。
- ・ 博物館施設の運営上の課題を理解する。

スケジュール

第1～3回：オリエンテーション、実習仮予約に関する指導、映像資料による指導

第4～6回：実習仮予約状況についての確認、模擬企画展構想についての討議、映像資料による指導

第7～9回：見学実習、模擬企画展構想についての討議

第10～12回：模擬企画展に関する調査報告、展示計画の確定

第13～15回：模擬企画展の設営、実施

次年度に履修する「博物館実習II」での学外実習に向けて、準備を進めていく。本実習は施設に出向いて指導を受ける機会もあるため、土曜日の午後(3,4,5時限目)に集中形式で、不定期に開催される。本実習ではまず、学外実習への参加に至るまでの手続きについてレクチャーが行われ、それをふまえて履修者が各自で実習希望施設と交渉し、実習受入れに関する仮予約等の手続きを取る。

また、学外実習に備えての事前指導として、博物館業務にかかわる基礎知識、実習を受ける際の心構えとマナーなどについて、教員による指導、および映像資料なども用いた講義も適宜行う。これらに関しては、必要に応じて模擬企画展の開催を想定したグループワーク的な作業を取り入れる。さらに、群馬県内および近隣の博物館施設への見学の機会を設け、博物館施設の運営手法の多様性について、体験的な学習を進めていくことにしたい。

教科書・参考文献

教科書 全国大学博物科学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版、2002年)

参考書 佐々木利和『新訂 博物館概論』(放送大学教育振興会、2007年)

授業外での学習

実習の性質上、授業外で遂行する課題もある(具体的な作業は実習中に指示する)。履修生同士協力し合い、必要に応じて役割分担を決め、課題を遂行すること。

評価方法

学内実習の成果と参加の積極性に基づき、評価を決定する

履修上の注意

「博物館実習II」の履修に先立ち、本実習を必ず履修しておかなくてはならない。積極的にさまざまな博物館施設を視察しておくこと。また、実習予定施設の概要や収蔵資料等については実習前に十分に学習しておくこと。

科目名 博物館実習II
Title Internship at Museum II
科目区分 実習科目(資格関係)

教授 友岡 邦之(トモオカ クニユキ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 4 単位数 3 開講時期 通年
単位区分 要件外

目的

博物館の登録制度、学芸員の養成プロセスと待遇、指定管理者制度等、現在、日本の博物館施設は様々な検討課題を抱えている。こうした状況下でも、施設運営の現場に立つ人々は、各施設のミッションの遂行のために日々努力をしている。本実習では、博物館施設の運営に実践的に関与することにより、学芸員の職務内容を理解するとともに、施設運営に関する基礎的な技術を身につける。また本実習は、学芸員資格課程の最終的な仕上げとして位置づけられている。

達成目標

- ・ 地域社会にとっての博物館施設の存在意義を理解する。
- ・ 学芸員の職務内容と待遇の実態を理解する。
- ・ 博物館施設の運営上の課題を理解する。

スケジュール

【前期】

第1～3回：オリエンテーション、実習予約状況についての確認、映像資料による指導

第4～6回：実習予定施設についての研究発表、実習を受ける際の心構えとマナーについての指導

第7～9回：かみつけの里博物館での事前指導

第10～12回：高崎市美術館、高崎市タワー美術館での事前指導

前年度に履修した「博物館実習I」を受けて、学外実習に向けての準備を進めていく。本実習は施設に出向いて指導を受ける機会もあるため、水曜日の午後(3, 4, 5時限目)に集中形式で、不定期に開催される。

【夏季休暇期間中(原則として)】

学外実習

【後期】

第13～15回：事後指導

後期には、学外実習の成果を振り返るために、実習で学んだことを報告する演習形式の授業を実施する。すなわち、履修者各自が学外実習についてレポートをまとめ、プレゼンテーション・ソフトを用いて発表を行い、履修者間で討議を行う。この事後指導は、翌年以降の博物館実習の履修を希望している学生にも公開される。

教科書・参考文献

教科書 全国大学博物科学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版、2002年)

参考書 佐々木利和『新訂 博物館概論』(放送大学教育振興会、2007年)

授業外での学習

自ら積極的に多くの博物館施設を訪れ、施設運営の観点から見学しておくこと。

評価方法

実習日誌の内容、および学内実習の成果と参加の積極性に基づき、評価を決定する。

履修上の注意

前年度までに「博物館実習I」他の学芸員資格課程必修科目を、すべて履修しておく必要がある。積極的にさまざまな博物館施設を視察しておくこと。学外実習に真剣に取り組む意志のある者以外は履修しないこと。なお学外実習においては、自身の立場と責任を強く意識すること。